

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称      博士（医 学）      氏 名   中井 幸衛

主査      教授   西浦 博  
審査担当者   副査   教授   荒戸 照世  
副査      教授   大滝 純司  
副査      教授   吉岡 充弘

### 学 位 論 文 題 名

一般成人における抑うつに対する幼少期ストレス、気質、ライフイベントの影響：階層的重回帰分析による検討

(The influence of childhood abuse, adult stressful life events and temperaments on depressive symptoms in the nonclinical general adult population: Consideration by the Hierarchical Multiple Regression Analysis )

本研究は、一般成人における抑うつ症状の予測因子の解明の一環として、気質と幼少期ストレスまたは成人期のライフイベントが互いに交互作用して抑うつ症状に影響する様を分析した社会調査研究である。感情気質が小児期虐待、否定的または肯定的なライフイベントと交互作用し、一般成人の抑うつ症状に影響することを示した最初の報告である。

学位論文内容の口頭発表後、副査の大滝純司教授より、調査対象となった成人について代表性が確実に担保されていないのではないかと質問があった。同時に、主査の西浦博教授より、どのようなサンプリングが行われていて、その対象人口が一般成人と比較して年齢や性別、抑うつ症状についてどれくらい異なるのかを明示することが必要ではないかと質問があった。申請者は、調査手法はコンビニエンスサンプリングであって、病院職員や製薬企業関係者など普段の身近な関係者本人とその家族を対象に調査を依頼したものであると回答した。続いて、副査の吉岡充弘教授から、この研究によって交互作用が明らかにされることによって、具体的に臨床心理学的にどのような恩恵が得られるのか質問があり、続いて、副査の荒戸照世教授から、気質と幼少期虐待および気質と成人期ライフイベントの間の相互なつながりを知る意義についてより詳しく議論すべきでないかという質問があった。申請者は、ポジティブなライフイベントの交互作用に見られるように精神療法に活用可能かもしれない点について回答した。

この論文は、感情気質と幼少期ストレス、さらに、成人期ライフイベントが抑うつ症状に与える影響の詳細な構造、特に、交互作用に伴う効果増強作用について適切な方法論に基づいて解明した点で高く評価される。

審査委員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。